

道徳 4年

内容項目 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切に。3-（1）

郷土に住む人の戦争体験から、自分の生命を大切にしようとする気持ちと全ての人命を尊重する気持ちを育てる授業

資料名「必ず生きて帰る～飢えと病気の戦場～」(自作資料)

平成20年度札幌市作成戦争体験談資料を基に作成

1 主題のねらい

自分の生命を大切にしようとすると共に、全ての人命を大切にしようとする心情を育てる。

2 主題設定の理由

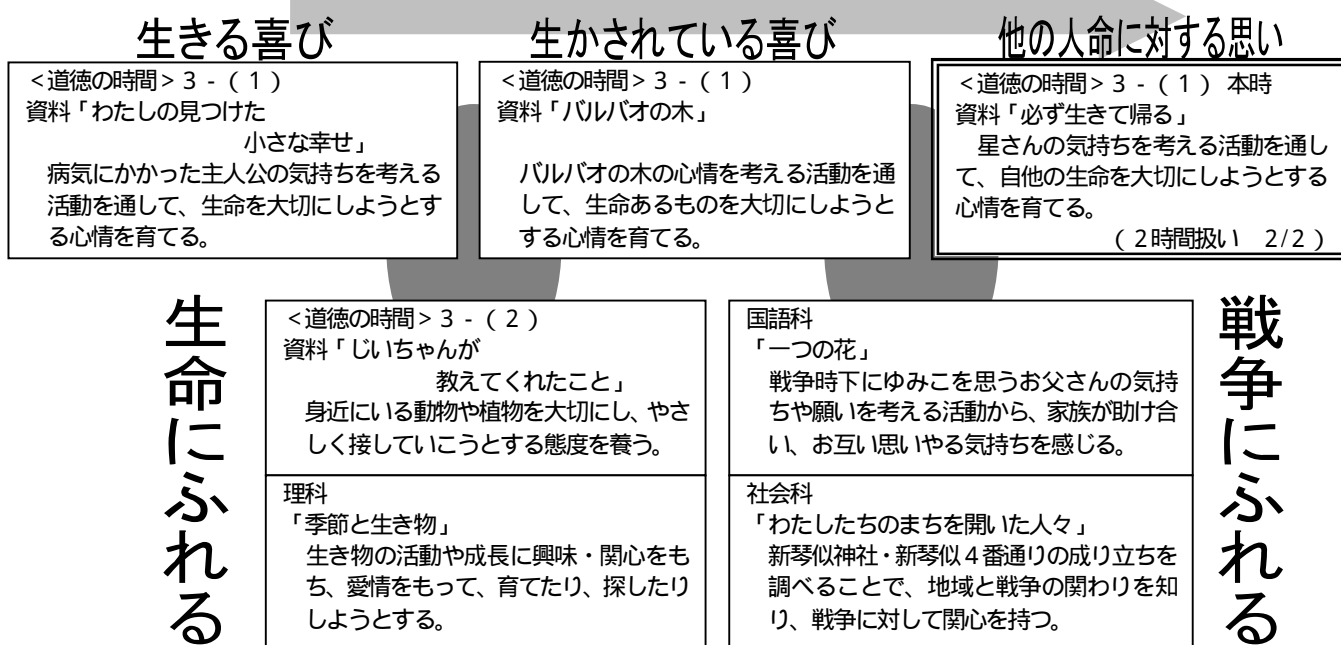
戦争では多くの人々が死に、残された家族は大きな悲しみを受けた。身近な人々の死は、悲しいことであると共に、日常意識しない「生きる」ということについて考える機会の一つである。子どもたちが戦争によって危機にさらされた兵士の生命や、残された家族の心情を考えることは、自らの生命を大切に思う気持ちを育てると共に、他者の生命を尊重しようとする心情を育てるだろう。

この段階の子どもたちとは、統計や背景からよりも、個人の体験の感想に重点を置くことが必要だと考える。家族とのつながりや、地域の人たちとのつながりから、1人の生命のかけがえのなさや他の生命とのつながりを子どもたちに感じさせたい。そのために、自他の生命について考える時間を本時に向けて構成した。

本時では、ガダルカナル戦に従軍し生還した札幌市在住の星さんの体験について考える。危機にさらされた星さんの心情に思いを寄せることで、子どもたちは自身の生命の尊さを感じることができる。また、死んでしまった仲間のことを考えつらい気持ちになった星さんの気持ちを考えるを通して、他者の生命を尊重する心情を育てたい。そして、今も元気に生活している星さんの姿を通して、精一杯生きることのよさを感じさせたい。

3 主題構成

自他の生命を大切に子ども



4 指導の工夫

- ・資料の内容に配慮し、2時間扱いで授業を行う。第1時では、子どもたちがガダルカナル戦について把握し、星さんの置かれた状況を理解できるよう関わる。
- ・他教科との関連では「一つの花」との関連を特に重視したい。お父さんの心情を考える活動で書いたワークシートなどを活用し、「お父さん」の生きて帰りたいという思いを引き出しておく。
- ・「飯ごう」を開拓記念館より借り出し、授業の中で見る機会を設ける。具体物に触れることで、星さんの心情を考えようとする子どもたちの意欲を高めたい。(第1時で使用)

5 本時の目標

星さんの心情を考える活動を通して、自他の生命を尊重し、精一杯生きようとする心情を育てる。

6 本時の展開

	児童の活動・意識	留意点
	<p>(前時までの流れ) 資料を読み、星さんが勿川川に帰ってくるまでについて子どもたちと内容を確認した。資料の補足として、ガダルカナル島に兵隊として行った多くの人々が死んだ事実を子どもたちに示し、星さんが生還できたことが当たり前ではないという意識を持たせた。そして、星さんの戦場での体験について話し合い、家族のことを思って生きることをあきらめなかった星さんの心情に迫った。本時では、故郷に帰るよう命令を受けた星さんが、死んだ仲間やその家族の気持ちを考え自分の命だけではなく、他者の人命も大切に思う星さんの心情に子どもたちを共感させていく。</p>	
導入	<p>ガダルカナル島の戦い(68年前)で死んだ日本の兵隊 およそ20000人(3人のうち2人死んだ)</p> <p>星さんの思い——「父さんが死んだら、ぼくたちどうすればいいの？」</p> <p>武器も食べ物もなく、仲間が次々と死んでいく中で、子どもたちのことを思い、生きるために必死になっていた星さんの姿</p> <p>「必ず生きて帰る」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生きて帰ろうとする星さんの気持ちを振り返る。 「1つの花」を想起させ、帰りたいという気持ちに意識が向くよう関わる。 帰りたい気持ちがありながら、帰ることがつらい気持ちになったことから、子どもの問いを生む。 星さんの立場で考えるよう関わり、自分の家族、死んでしまった仲間、仲間の家族の三つの立場に考えを整理することで、自分の命を大切に思うからこそ、仲間の死をつらく感じる星さんの心情に迫ることができるよう支援する。 星さんのその後の生き方に触れ、仲間の分も精一杯生きようとする思いに気付くよう関わる。 星さんの生き方について感じたことをカードに書く。
展開	<p>「自分だけ生きて帰るのがつらくなりました」</p> <p>生きていたのに帰ってくるのがつらかったのはどうしてだろう？</p> <p>家族への思い ← 星さんの思い</p> <p>・待っている ・さみしい ・会いたい ・不安な気持ち</p> <p>← ・生きていてよかった ・幸せにしたい ・安心させたい</p> <p>もうすぐ会える</p> <p>家族への思い ← 死んでしまった仲間への思い</p> <p>・生きていて欲しかったろう... ・会いたかったろう...</p> <p>← × ・生きたかったろう... ・したいことがあったのに...</p> <p>もう会えない</p> <p>仲間や家族のつらい気持ちに気が付いたから</p>	
終末	<p>その後の星さんの生き方</p> <p>97歳になるまで元気に生活し、「運命は変えられるんだ」という思いで力強く生きている星さんの姿</p> <p>仲間の分も、一生懸命生きようとする姿</p>	

7 【評価の観点と方法】

人命の尊さを感じ、精一杯生きることのよさを感じることができたか。(カード)

仲間と仲間の家族のことを思い、帰るのがつらくなった星さんの気持ちに共感できていたか。(観察)